長洲町立長洲小学校 校長便り No.150

師の話

みんなの居場所の裏面は、小学生に 必要ではないかと思う問題、 貫用句等々を載せていきます。 ご家族の団らんの話題にしてみてくだ さい。会話が広がほす。

令和6年1月25日(木)

イヤー駅伝にも出場した選手です。 しました。 社会人になってからはニュー

やる気になります。」と言ってくれます。 彼らは「先生に気合を入れてもらうと、 を聞き、励まし、祈るだけなのですが、 嬉しい限りです。 節目に私に連絡をしてくれます。 私は話 技からは引退しましたが、今でも色々な ませんが、彼らがいた当時のクラスは大 クラスの一つなのです。この子は陸上競 奮闘したクラスでしたので、 私の自慢の のクラスで良かった。」と思わせるために 荒れに荒れていて、そんなクラスを「こ にお子さんです。 私の自己満足かもしれ この教え子は私が玉名市時代に担任し

として彼らが頼ってくれるようなそんな 様々な場所で活躍していて、私も元担仔 用試験に合格した子…、多くの子供達が 格した子、司法試験に合格した子、東京 が連絡をくれました。医師国家試験に合 師冥利」を感じることができる私は、実 っているところです。 うまく行かず、「これじゃいかん!」と思 結婚した子、子供が生まれた子、教員採 都庁に合格した子、成人式を迎える子、 に幸せ者です。これまでも多くの教え子 人間になりたいと思っています。が、中々 このように、教え子たちの活躍に「教

た子供達の記憶の中に残る先生になれる えるようになっている私澤田です。答え 感謝して、もう駄目だと思っても、あと ように、これからも、真摯に、謙虚に、 は中々出せない私ですが、私が接してき こ自分に言い聞かせています。 歩だけ前に進むことを心掛けていこう 最近、「教師としての成長」について考

ナ供達の活躍に発奮したい 数年前、私の教え子が箱根駅伝に出場

思った人も多いはずです。今からでも遅くは えていく初期段階です。気持ちを引き締めて まだまだこれから精神的にも肉体的にも鍛 壁を乗り越えると、相当の精神力が付きま 間を費やした努力が必要です。しかし、その 何の世界でも結果を出すためには、莫大な時 ません。私も含めた「今の若者」は、忍耐と らといって、すぐに結果が出るものではあり 努力には即効性が無いということも自覚し 強くなり、人格も磨かれていきます。そして かが欠けている、あるいは努力が足りないと 力を発揮するためには、それを発揮するため の三つのうち、どれが欠けてもだめです。知 標を決めてそれに努力をするわけですが、夢 当然でしょう。近い将来、子供達は自分の目 たくさんあります。それは、勉強と運動です。 の夢、ましてやその夢を実現するために何を 達がいます。当然と言えば当然です。まだま す。精神的に強くなると、人に優しくするこ ません。この話を聞いていて、自分にはどれ いう強い気持ちがなければ、成果は期待でき の土台(肉体)が必要ですし、いくら土台が を実現するための努力は、血の滲むような、 いではないのです。小学生としてやることは のが現状でしょう。でも、やることが全くな 為すべきなのかなんて、まだまだ分からない だ、成長の途上にある子供達ですから、将来 ともできるようになってきます。子供達は、 かハングリー精神が足らないから尚更です。 ておく必要があります。一日二日努力したか し、たゆまぬ努力を重ねることは精神的にも ありません。努力することです。目標を設定 しっかりしていても、学問を身に付けたいと 大変なものです。その努力を成し遂げるため には、強靭な体力と精神力と、知力です。こ 自分の将来のことについて話をする子供

卒業前雑感
 〜努力の継続〜

シリーズ「自分を語る」#150

すので、ここから先の自分は差し障りのないように注意して書いていきます。 こ了承くださいませ 平成30年度以降の自分について語りますと、かなりリアルな情報となりま

動は2年とか3年が多いので、私もソワソワしていた頃です。 平成31年1月、教頭として3年目が終わろうとしていました。管理職の異

3月終わりのある朝、校長室に呼ばれました。

れを求めていた時期です。 省く」ことと「隙間時間を無くしていく」ことを自分自身に課し、職員にもそ ような状況でした。この頃からでしょうか「働き方改革」を改めて考えるよう えてきて、それをどうにかクリアしたいという欲が自分自身を追い込んでいく す。とはいえ、教頭業務はやはり激務でした。慣れてきた分、新しい仕事が見 になりました。当時、私は口やかましい教頭だったなと振り返ります。「無駄を 「また楽しいことが続きそうだな。」と、密かにほくそ笑んだことを思い出しま 「教頭先生、来年度も荒尾第一小学校をよろしくお願いします。」 瞬「えつ…」となりましたが、慣れ親しんだ学校での4年目の勤務となり

いと、プライベートな時間が全く取れませんからね。今では心の中では改革が です。 最近私、 仕事は70%で良いと思っています。 どこかで区切りを付けな 少なくなりません。そこでたどり着いたのが、先生万一人一人の「意識改革」 次々と更新していましたから。でも、これがずっと続くと、在校時間は一向に と思います。担任時代もそうでしたが、子供達の成長が感じられる時って、ど す時間が増えていくのです。結局、教師の遣り甲斐ってこんなことなのだろう できていますが、実践が伴っているかどうかは相変わらずですがね…。 「こうすれば効率的に仕事ができるのではないだろうか。」とか考えて、それを んなに時間を費やしてもそれを苦痛には感じませんでしたからね。 教頭時代も した。教師の性といいますか、次々と新しいアイデアが出てきて、それに費や その様な取組に力を入れていても、帰宅する時刻は中々早くはなりませんで

学校外でのお仕事もさせて頂く場面が多くなりました。印象的な出来事を1つ にけお話してみたいと思います。 話をもとに戻しまして、荒尾第一小学校の4年目は順調に流れていきつつ、

り、そのことについて広く啓発して欲しいということだったようです。私でよ ければという気持ちで承諾し、かなり時間をかけ、丁寧に準備したことを思い 「教頭先生、コミュニティ・スクールについて発表ばしてもらえんどか?」 ある日、校長室に呼ばれました。校長先生からこう言われました。 荒尾第一小学校ではコミュニティ・スクールとして多くの取組を展開してお

市は私澤田の連れ合いの故郷でもあります。 …ん!? 発表の会場は天草市民センターです。旧本渡市の中心部であります。 ()))\ 旧本渡

いきたいものです。

)